

しんりんかんだより

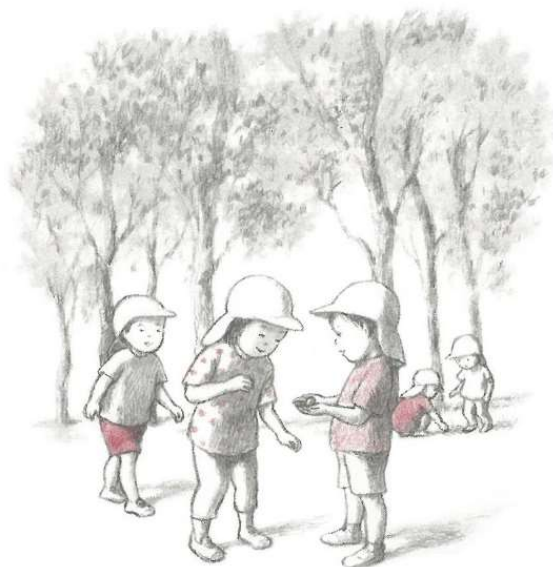
年主題

「さあ、漕ぎだそう奏でよう」

副題 3F/2F ゆったりと/平和を祈る

‘24 第5号 (vol. 89)

2024年8月1日発行



“みんなは素晴らしい、みんなでいることはもっと素晴らしい”この夏のお泊まり保育の合言葉です。初日の山登り、友だちが遅れると「おいで一」と声をかけていたT君。すぐ後ろに足音が近づくと安心してまた登りだしていました。キャンプ場に到着し、森の中でセミの声を聴きながら開会礼拝を行いました。ひとり一人は神様から与えられた大切な命であること、そして自然の中で虫や動物など沢山の命を見つけよう！みんなで協力し力を合わせて楽しい事をたくさんしよう！と話をしました。

そして礼拝後広いキャンプ場に続く公園を散策し始めると、「もう疲れたから歩けない…」とSちゃんが座り込んでしまいました。「みんなで迎えに行こう！！」Hちゃんが走り出すと全員が走ってSちゃんを迎えに行きました。「みんなで来たよー」全員で横に手をつないで歩いてくる子どもたち…「だってさあ先生みんなでってお話ししてたでしょう。」Hちゃんの笑顔に一目から胸が熱くなりました。

晴天に恵まれ2日目は、大笹牧場で思いきり一日中遊ぶ事が出来ました。夜は、バーベキューをお腹いっぱい味わい、いよいよお楽しみの花火!!という時に突然のスコールがありました。室内で雨の止むのを待っていると、H君の目に涙が…花火ができないかもしれないという残念さが引き金になり、頑張っていた気持ちが切れてしまったようでした。「H君泣いてる」とは、口にせず、ただ見守ることで「大丈夫だよ」という気持ちを共有する子どもたち、みんなで乗り越えようとする気持ちが、その場の空気から伝わってきました。雨が上がり花火が再開される事になった時、「良かったねH君、花火できるって！」ムードメーカーのEちゃんが重い空気を吹っ切るように声を上げると、みんながいきなり笑顔になりました。

人の気持ちを感じる事のできる感性が育つこと、それは時には感じすぎて悲しい思いになることもあるかもしれませんが、でもその感性が子どもたちの人生を豊かなものにしてくれると信じています。

(主任 鹿糠 正美)